

独立行政法人日本芸術文化振興会の令和2年度業務実績に関する評価結果を踏まえた
業務運営の改善等への反映状況

評価項目	令和2年度業務実績評価における主要な指摘等	左の指摘等を踏まえた令和3年度の改善の状況
<p>I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p>	<p>・実演、インターネット配信等について、グローバルに発信できるコンテンツ開発と共に、国内外を問わずそこへのアクセスを喚起、誘導する戦略的広報を望みたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実演については、各分野において多言語対応による外国人向け公演を継続して上演している。引き続き、動向を踏まえて公演を企画し、利用者が拡大するようウェブサイトや SNS を柔軟に活用して広報に努める。 ・振興会ホームページ内の動画配信サイト「国立オンライン劇場▶▶つながる伝統芸能◀◀」において、それまで行っていなかった声明、民俗芸能、能楽の公演記録映像を配信するなど、対象分野の拡大に努めている。 ・振興会ホームページの英語版を充実させることにより、アーカイブ映像配信事業をより国内外にアピールできる体制を整えた。 ・和楽器の魅力を実演家が紹介する映像を5種類（笛・尺八・箏・三味線・太鼓）制作し、配信した。さらに、教科書の出版社と協力し、学校での利用も視野に入れる。 ・国立劇場おきなわでは、3年度から公演記録映像の有料配信を行っている。 ・新国立劇場では、11月に「新国デジタルシアター」を開設し、公演等の映像配信情報を1か所に集約することで、配信映像へ容易にアクセスできるようにした。また、10月から3か月間、ヨーロッパ最大級のオペラ映像配信プラットフォームである OperaVision にて、7月に新制作したオペラ「カルメン」を無料配信し、3.9万人以上の視聴者数を獲得した。 ・広報においては、SNS や海外メディアのライターの公演招待などコンテンツの特性に合わせた最適な発信方法を検討した。 ・新しい文化芸術の鑑賞方法として、3DCG のバーチャル空間におけるデジタルコンテンツにより国内外から多様な「日本の美」を体験できる「バーチャル日本博」を東京2020大会期間中の8月に開設し、2月には最先端のICTを活用した「メタバース」として大幅にリニューアルした。

以上